

	検査項目	検査の説明	検査前準備/注意事項	検査に要する時間	検査場所	検査に適さない方
呼吸機能検査	肺機能検査	マウスピースをくわえ肺容積や気道の閉塞状況、末梢気道病変について調べます。いわゆる肺活量測定を行います。	肺機能検査は最大の努力があって意義を持つ検査です。このため、検査は患者さんにできるだけ頑張ってもらえるように担当の検査技師が大きな声掛けを行います。	5分～15分	北棟4E	呼吸器感染症が疑われる方。呼吸困難や胸痛きたすような疾患がある方。
	肺機能精密検査	最大限空気を吐ききった時点で肺の中にどれくらい空気が残っているか(残気量)、肺から酸素が効率よく血液に取り込まれているかどうか、肺全体に均等に空気が送り込まれているかなどを調べます。	胸やお腹を締め付けない服装。検査の2時間前より食事・喫煙は控えて下さい。	30分～60分	北棟4E	呼吸器感染症が疑われる方。呼吸困難や胸痛きたすような疾患がある方。
	呼吸抵抗	安静呼吸時の気道の状態を調べる検査です。喘息患者さんは気道が狭くなって息を吐き出しにくくなっていますが、モストグラフでどの程度吐き出しにくくなっているかを、「気道抵抗」という数値で調べます。	検査結果に影響を及ぼす可能性があるため、検査直前の食事・運動・喫煙は控えて下さい。	5分～15分	北棟4E	呼吸器感染症が疑われる方。呼吸困難や胸痛きたすような疾患がある方。
	呼気中NO濃度	呼気NO検査(一酸化窒素検査)は治療の経過を診る(気道炎症の程度を測る)ための指標になります。喘息もしくは隠れ喘息(喘息の疑い)があるかどうかの判断基準になり、適切な判断ができるようになります。	検査結果に影響を及ぼす可能性があるため、検査直前の食事・運動・喫煙は控えて下さい。	5分～15分	北棟4E	呼吸器感染症が疑われる方。呼吸困難や胸痛きたすような疾患がある方。